

京都大学附属病院を受診された患者様並びに京都大学の研究に試料を提供いただいた皆様へ

本学では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、試料や診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の申し出先・問合せ先にご連絡ください。利用や提供を拒否されても不利益を被ることはありません。

1 研究課題名 (受付番号)	「進行期胃癌における L-Asparaginase 感受性予測因子としての ASNS 遺伝子メチル化状態の解析」
2 研究責任者 (所属研究機関)	特任助教 渡邊 敦 (山梨大学医学部小児科学講座)
3 他の研究機関および各 施設の責任者 <small>記載しきれない場合は次ページへ</small>	なし
4 承認した倫理審査委員 会と研究機関長の許可	本研究は山梨大学医学部倫理委員会承認され、山梨大学医学域長の許可を得て実施しています
5 研究の目的	本研究では、過去に山梨大学医学部附属病院で治療を受け、外科手術を受けた患者さんの組織または京都大学消化管外科学講座に保管されている組織標本を用いて、アスパラギン合成酵素 (ASNS) 遺伝子のメチル化状態の分布を明らかにすることを目標としています。この研究で得られた知見に基づき、将来的には L-アスパラギナーゼを用いた進行期胃癌に対する新規化学療法戦略を構築したいと考えています。
6 対象となる 試料・診療情報の 取得期間	2005 年 5 月 1 日より 2026 年 3 月 31 日までの間に、京都大学医学部附属病院消化管外科で胃癌に対して手術を受けた方。
7 研究期間	2021 年 6 月 4 日～2026 年 3 月 31 日
8 研究の方法 (利用または提供する試 料や診療情報等)	胃がん細胞の保存試料を用いて、ASNS 蛋白が胃がん細胞にどの程度発現しているかを調べます。また、ASNS 蛋白の発現が弱い保存試料を用いて、ASNS 遺伝子のメチル化状態を評価し、L-アスパラギナーゼが有効と考えられる胃がんが全体のどの程度の割合で存在するのか、また ASNS 遺伝子がメチル化された胃がんの臨床的・病理学的な特徴は何かを調べます。利用する情報・項目は、診療録情報、検査データ、腫瘍の切除標本、その辺縁の正常胃組織等になります
9 試料・診療情報の他研 究機関への提供およびそ の提供方法について	匿名化の上、試料については、郵送・宅配により、診療録情報ファイルにはパスワード設定を行い、電子的配信により提供を行う。
10 試料・情報の管理責 任者	山梨大学 臨床研究センター 学部内講師 矢ヶ崎英晃

11 試料・診療情報の提供の辞退に関するお申し出先・お問合せ先	郵送: 〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54 京都大学消化管外科 板谷 喜朗 電話: 075-366-7595
備考・その他	